

国会議員による自衛隊に関する不適切発言に抗議し、自衛官の名誉と尊厳を守ることを求める意見書

令和8年6月15日の参議院決算委員会において、立憲民主党の古賀千景参議院議員が、自衛隊への入隊と経済状況を結びつける趣旨の発言を行った。

この発言は、自らの意思と誇りを持って国防や災害対応という崇高な任務に従事している全国の自衛官及びその家族、関係者に対し、著しく敬意を欠くものであり、到底看過できるものではない。

自衛隊は、我が国の平和と独立を守る防衛任務のみならず、大規模災害時における人命救助、生活支援及び復旧活動、更には国際平和協力活動など、国民の生命、身体及び財産を守るため極めて重要な役割を担っている。

東日本大震災、熊本地震、能登半島地震をはじめとする数々の災害においても、自衛官は危険を顧みることなく被災地の最前線で活動し、多くの国民から感謝と信頼を寄せられている。

また、自衛官を志す理由は、国家への使命感、地域社会への貢献、専門技術の習得、安定した職業選択など多岐にわたり、それぞれが高い志を持って職務に就いている。さらに、自衛官は時として生命の危険を伴う任務に従事し、国民の生命、身体及び財産を守るという崇高な使命を担っている。

その動機や背景を一面的に捉え、自衛官及び自衛隊を志す若者を家庭環境や経済状況によって一括りに評価することは、自衛官一人一人の努力や誇りを軽視するものであり、その名誉と尊厳を損なうものである。

近年、自衛隊は全国的な人材確保という課題に直面している。そのような状況下で、国会議員による今回の発言は、自衛隊を志す若者やその家族に誤った印象を与え、募集活動や隊員の士気にも悪影響を及ぼしかねない重大な問題である。

古賀議員は発言を撤回し謝罪を行ったが、国民の代表たる国会議員による発言として、その責任は極めて重いと言わざるを得ない。再発防止に向けた真摯な対応と説明責任が求められる。

よって、本市議会は、今回の発言に対し強く抗議するとともに、国に対して、自衛官及びその家族の名誉と尊厳を守るとともに、国会における議論が国民の信頼に応える責任あるものとするよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和8年6月30日

内閣総理大臣
総務大臣
防衛大臣殿
衆議院議長
参議院議長

座間市議会議長 松橋淳郎